竹内巴紅

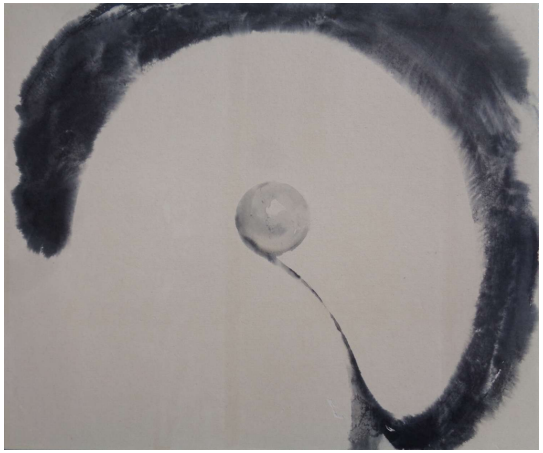
前衛墨画「可」

「可」という墨画に込めた想いが、長谷川先生の素晴らしい即興曲と共鳴し、時間と空間の中に流れ込み新たな表現となりました。有難うございました。

「可」の題は誰もが持っている可能性、まだ自分でも気づいていないような小さな可能性が銀河や森羅万象から、また人々の表現から、エネルギーを受け取り少しずつ大きくなって、感性豊かな人へと育ってほしいという想いです。

混沌とした時代の中でも、小さな可能性を大切にしたいと思います。

静岡大学の皆様との出会いに心より感謝致します。





第29回 テクノフェスタ

ピアノとウェルビーイング
研究所企画2026

プログラム

2026年11月7日（土）12:30〜14:30

静岡大学 浜松キャンパス

情報学部2号館 1階 情13教室

プログラム

第1部　講演会　12:30〜13:30

12:30　心地よい博物館って、どんな場所？

神谷龍之介（浜松市楽器博物館 学芸員）

13:00　装飾家具としてのピアノ

― アール・ヌーヴォーとアール・デコの例を中心に ―

木村映美（女子美術大学ほか 講師）

第2部　レクチャー＆演奏動画上映　13:40〜14:30

俳句から音楽へ

― 連歌的芸術エネルギー変換の試み ―

01　ピアノ組曲「緩歩動物クマムシ」

長谷川慶岳 作曲

02　歌曲集「緩歩動物 クマムシ」

竹内一犀 俳句／音楽生成AI「Suno」により制作

03　前衛墨画「可」

竹内巴紅 画

04　二つのピアノ即興より（１）

前衛墨画「可」による／長谷川慶岳 作曲

司会　安永 愛（ピアノとウェルビーイング研究所 所長）

第2部　制作者の言葉

竹内一犀　俳人・金子兜太門下・静岡大学工学部卒業生

今年の7月に、安永先生より「クマムシ」の俳句を作れますかとのお尋ねがきっかけです。

見たことも聞いたことも無かった季語には非ざる「ムシ」で、私にとっては「バーチャル」な兼題でした。過去に私は浜松の中田島砂丘にて子供達と共に早朝の赤海亀の保護活動を2年間行い、一般には見る事ができないものを見たという原体験がありましたので、「クマムシ」の「バーチャル」が「原体験」として結実し、春夏秋冬や生死の往還等における昇華を得る事ができたのかも知れません。「クマムシ」の四季の変容を謳いつつ、翻る緩歩の踊りの転調により覚醒を求めながら、「クマムシ」に導かれる「さ、あれど未来」への緩歩の鼓笛隊を思い描いたものです。

長谷川慶岳　静岡大学教育学部教授

この度、クマムシを題材とした俳句からインスピレーションを得て音楽を作るという貴重な機会をいただきました。

昨今音楽の作り方は様々ですが、今回は俳句をChatGPTに読み込ませてその解釈と音楽作りのヒントを生成させ、それらを手がかりとして、パソコンとつながったデジタルピアノで私自身が即興演奏したものを記録する、という手法をとりました。「AIと人間のコラボによる作曲」、と言っては少し大袈裟かもしれませんが、従来の孤独な作業と比較して格段にスムーズに作曲ができました。

さらにChatGPTの生成したプロンプトを用いて音楽生成AI「Suno」に俳句を歌詞とした歌曲を生成させました。

今後のクリエイティブにおいて、人間とAIの境目がどんどんなくなっていくことが予想されます。そんな新しい時代の息吹を感じていただけたら幸いです。